

廣野様仏画保存修復報告書



2013/02/23

納入

～ 目 次 ～

◇ 修復の記録内容 ◇

- ・ 事前調査
- ・ 解体
- ・ 洗淨
- ・ 本紙調整と補紙
- ・ 肌打ち
- ・ 増裏打ち
- ・ 切り継ぎ
- ・ 中裏打ち
- ・ 総裏打ち
- ・ 仕立て
- ・ 修理方針

～制作～ 吉原表具店

◇材料◇



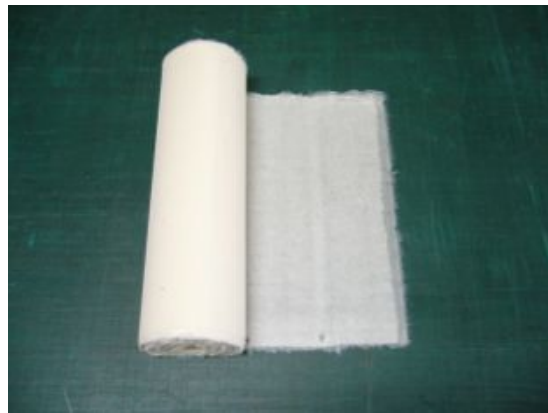
正麩糊



美濃紙(肌裏用)



本美須



継いだ状態(増裏・中裏用)



宇田紙(総裏用)



□事前調査と修復前後□

裏側に貼られた題名



以前は裏側に縦貼りされていた題名を横に貼り直す。

利点として、

- 巻いた時に厚みの差が負担になりにくい
- 巻いてある状態でも題名を読み取ることができる
- 本紙部分に重なるため、シミ等悪影響をおよぼす可能性を少しでも排除するため



調査の段階で、裏側より光を当て透かしてみる事で本紙の痛み具合や厚さ紙や絵の具の状態といったものが見えてくる。

この作品の場合は、今回で2回目、あるいは3回目の修復となる。かなり古物なので十分な調査と時間をかけて慎重に行う。

本紙の紙質は、間似合紙に非常によく似た紙である。また、補修箇所に厚みの違う紙が用いられているので厚みを調整して取り替える。

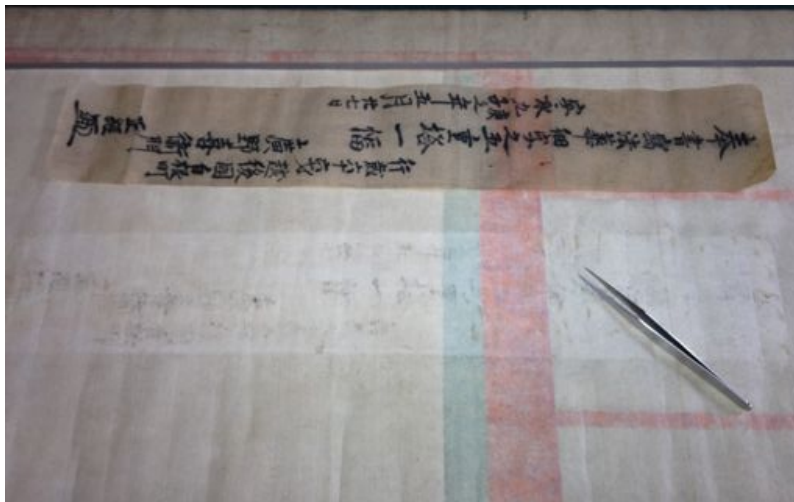
縦に擦れて薄くなったような亀裂が何箇所もあるので状態を見て補強紙を入れるかどうか検討する。

非常に折れやすい紙質なので、桐箱に今回、【太巻き】を使用させていただく。



乾湿法でゆっくりと剥がしていく

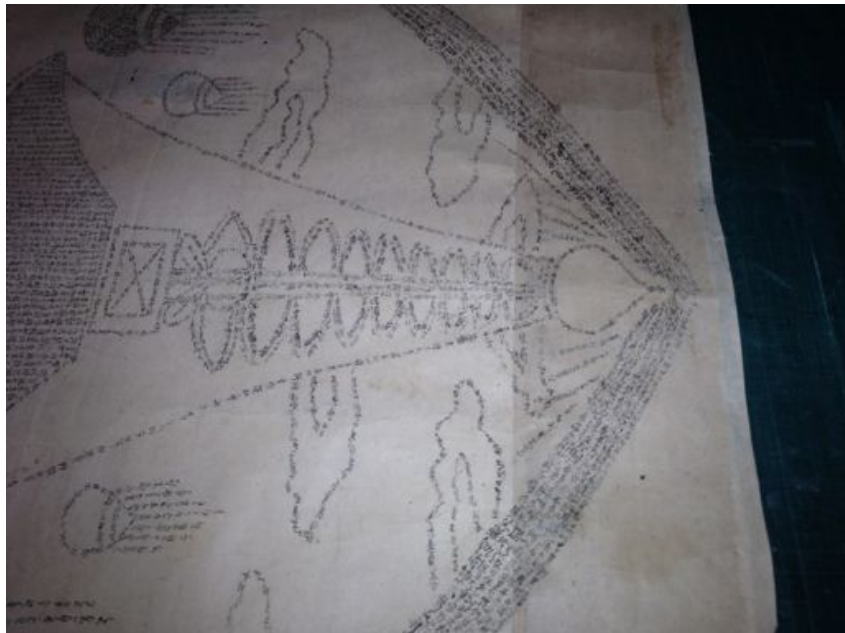
題名を剥がす時、水分を与えすぎると表にシミが出来てしまう可能性があるため極力水分を使わない「乾湿法」を言う技法で少しずつ、ゆっくりはがしていく。



中央の白くなっているところが剥がし終えた部分



裏から光を当てて本紙の状態を調べる



表から見ただけではわからない



左側が肌裏後敷き干しをした後に、俺伏せを入れたところ。
右側が、切継後あとで出てきた折れに再度折れ伏せを入れる



総裏を入れた後、敷き干しをし、万が一この後折れが出るようであれば最後の折れ伏せを入れる。



完成

今回は、正麩糊を使用したので将来も作品にダメージを与える事が少なく修復できることと思われます。

1つだけ注意点として、
湿気に敏感なので、保管場所などに留意していただきたいとおもいます。

- ・梅雨時は掛け軸を掛けない
- ・年に一度はカラッと晴れた日に空気に当てていただきたい